

# 調布市スポーツ推進計画(素案)概要

## 第1章 スポーツ推進計画策定に当たって

### 計画策定の背景・趣旨

- 2019年にはラグビーワールドカップ2019™日本大会、2021年には延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が市内の競技会場で開催された。
- 両大会を契機としたスポーツ機運の高まりを、今後ともレガシーとして継承・発展させていくことが重要である。
- とりわけ、東京大会では「多様性と調和」を基本的なコンセプトの一つとして、共生社会の重要性が改めて認識された。市においても、大会を契機としたパラスポーツの普及・啓発、障害当事者の運動機会の創出や障害理解の促進などへの取組を更に推し進め、共生社会の充実を図っていく必要がある。
- また、市内の味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザを含むエリアは、多摩地域の一大スポーツ拠点となっており、市内を活動拠点とするFC東京をはじめとしたトップスポーツチーム等とのパートナーシップを強化しながら、豊富なスポーツ資源を生かしたまちづくりを進めている。
- スポーツ推進計画では、こうした背景を踏まえ、市のスポーツを取り巻く現状と課題を整理し、豊富なスポーツ資源を活用しつつ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の観点から、スポーツ推進に向けた方針や施策を体系化するもの。

### 計画の位置付け・計画期間

- 本計画は、スポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定するもの。
- また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを踏まえるとともに、両大会を契機とした有形・無形のレガシー創出に向け策定・推進した「調布市アクション&レガシープラン」のスポーツ分野における取組の継承・発展を図るべく策定するものである。
- 計画期間は、令和6年度から令和12年度までの7年間とする。

### 計画が対象とするスポーツの範囲

- 本計画では、野球やラグビー、サッカーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか、健康のための散歩や体操などの軽い運動、さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など、意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指す。

## 第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

### 社会情勢の変化

- 人生100年時代の到来
- 持続可能な社会への移行
- 多様性を認め合うまちの実現
- 国際スポーツ大会のレガシー
- デジタル技術革新の進展



### 国や都の動向からみる社会潮流

- スポーツ基本計画(国)第1期(2012~2016年度)、第2期(2017~2021年度)、第3期(2022~2026年度)
- 東京都スポーツ推進総合計画(2018~2024年度)、T O K Y Oスポーツレガシービジョン(2022年1月策定)

### 【第3期スポーツ基本計画(国)(2022~2026年度)】

- 持続可能な国際競技力の向上
- 大規模大会の運営ノウハウの継承
- 共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進
- 地方創生・まちづくり
- スポーツを通じた国際交流・協力
- スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

### 視点

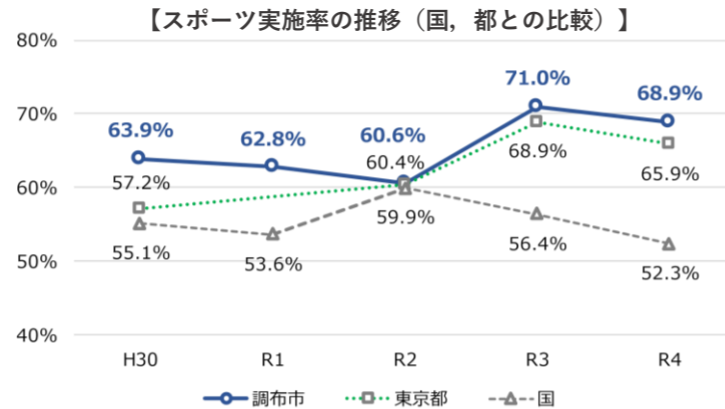
- スポーツを「つくる/はぐくむ」
- スポーツで「あつまり、ともに、つながる」
- スポーツに「誰もがアクセスできる」

### 市のスポーツ推進の現状

- 週1回以上スポーツをする市民の割合は**68.9%**
- 1年間で週に1回以上スポーツ観戦をした人は**10.9%**
- 1年間でボランティアを行った人は**4.3%**
- 体育の授業以外で週1回以上運動・スポーツをする子どもは**84.8%**
- 障害者スポーツに関心がある人は**33.1%**

### 計画策定の視点

- 世界最大級のスポーツイベントの開催を契機としたスポーツ機運の高まりを生かしたスポーツ振興
- トップスポーツチーム等多様な主体との連携
- スポーツを通じた共生社会の充実(「パラハートちょうふ」の取組)



## 第3章 市の目指す姿

### 将来像

生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまち  
～スポーツを通じた共生社会の充実～



- 年齢や障害の有無等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備する。また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承・発展させ、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指す。
- 将来像(基本理念)を実現するために、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」及び「パラハートちょうふ つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」の理念に基づき、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しむことができる機会を創出するとともに、市民ニーズを踏まえたスポーツ施設の利用環境の向上、安全で快適な市民のスポーツ環境の整備などを推進する。
- とりわけ、東京2020大会を契機とした共生社会への理解・関心の高まりを捉え、誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の市民とともにスポーツを楽しめる環境を充実させることで、スポーツを通じた、共生社会の一層の充実を図る。

### 基本目標

#### 1 スポーツ活動の推進

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう、それぞれの年齢や体力等に応じた、各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しむことができる取組を推進する。

#### 2 スポーツ環境の充実

市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるよう、計画的な維持保全・改修を行うとともに、誰もがスポーツに取り組むための場の確保・充実や、地域スポーツ指導者の育成・支援などにより、スポーツ環境の充実を図る。

#### 3 スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

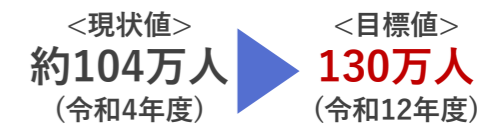
世界的なスポーツイベントの開催等を契機に、スポーツを活用した地域振興等への期待が高まっている。  
トップスポーツチームや武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク等の豊富なスポーツ資源を生かし、スポーツを核としたまちのにぎわい創出を図るとともに、スポーツを通して市民の交流を促進する。

### 成果指標・目標値

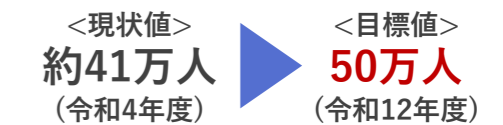
#### 週1回以上スポーツをする市民の割合



#### 市立スポーツ施設利用者数



#### スポーツイベント等における交流人口



## 第4章 施策の展開

- 将来像の実現に向け、3つの基本目標を掲げ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」それぞれの視点から、14の施策に取り組む。
- 具体的な施策は別紙「調布市スポーツ推進計画(素案)施策体系」のとおり

## 第5章 計画の着実な推進

### 推進体制

- 本計画に掲げる取組は、市が牽引役となり、調布市スポーツ協会やスポーツ推進委員会、総合型地域スポーツクラブである調布SHC倶楽部などのスポーツ関係団体、トップスポーツチーム、民間企業、大学等、様々な主体との連携・協働によって推進する。



### 進行管理

- 本計画の着実な推進に向けては、上位計画である調布市基本計画に掲げるスポーツ施策に基づき展開するものとする。また、行革プラン2023や調布市公共施設マネジメント計画に基づき、スポーツ施設の整備やスポーツ施設利用者の利用環境向上に取り組むものとする。
- 各基本目標に掲げる成果指標の推移については、スポーツ振興課が取りまとめ、スポーツ推進審議会を活用して定期的に進捗報告等を行うものとする。
- こうした取組の実施状況の確認を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行っていくことで、PDCAサイクルを活用した計画推進に取り組んでいくこととする。

# 調布市スポーツ推進計画(素案)施策体系

## 施策体系 (第4章)

将来像	基本目標【成果指標】	基本施策	主な取組
生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ生き生きと過ごせるまち （スポーツを通じた共生社会の充実）	<b>スポーツ活動の推進</b> 【成果指標】 週1回以上スポーツをする市民の割合 <現状値> 68.9%（令和4年度） ▼ <目標値> 70%（令和12年度）	○ スポーツをはじめる機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様なスポーツイベントの開催(市民体育祭, スポーツまつり, 市民駅伝競走大会など)</li> <li>● トップスポーツチームと連携した学校訪問等の実施</li> <li>● 健康の維持増進のための取組の実施</li> </ul>
		○ 地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの体力向上事業の実施(ゆめおり陸上倶楽部出前授業, ジュニア陸上体験教室など)</li> <li>● 地域におけるスポーツ大会の実施(小学生ドッチビー大会, 児童館・学童クラブでのスポーツ大会など)</li> </ul>
		○ ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幅広い年代に向けた運動プログラムの実施(スポーツ協会セブンプログラム, リフレッシュ体操スクールなど)</li> <li>● シニアスポーツの振興</li> <li>● ニュースポーツ等の普及・啓発</li> </ul>
		○ 障害の有無に関わらないスポーツ振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害当事者の運動機会の創出・定着に向けた取組の実施(障害者スポーツ協議体, 障害者余暇活動支援事業など)</li> <li>● パラスポーツの普及・啓発(障害者スポーツ体験会, パラリンピック教育, ボッチャ出前授業など)</li> <li>● デフリンピックを契機とした取組の推進</li> </ul>
		○ スポーツの支え手の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域スポーツを支える団体等の育成・支援</li> <li>● スポーツボランティアの育成と活動の促進</li> </ul>
	<b>スポーツ環境の充実</b> 【成果指標】 市スポーツ施設利用者数 (学校開放含む) <現状値> 約104万人(令和4年度) ▼ <目標値> 130万人（令和12年度）	○ スポーツ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ施設の維持保全・計画的な改修</li> </ul>
		○ スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設管理における効率的かつ効果的な維持管理・運営の検討</li> <li>● スポーツ施設の再配置の検討</li> </ul>
		○ スポーツに取り組むための場の確保・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ施設を活用した地域スポーツの場の確保と支援</li> <li>● 東京都や民間のスポーツ施設, 学校施設等の活用</li> </ul>
		○ 地域スポーツ指導者の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導者育成に向けた取組の充実</li> <li>● スポーツ指導員派遣事業の充実</li> <li>● 部活動地域連携・地域移行への対応</li> </ul>
		○ スポーツ・レクリエーションに関する情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市ホームページ等でのスポーツ・レクリエーション情報の充実</li> <li>● SNS等を活用した情報発信の充実</li> <li>● スポーツや健康に関する普及・啓発</li> </ul>
	<b>スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進</b> 【成果指標】 スポーツイベント等における交流人口 <現状値> 約41万人（令和4年度） ▼ <目標値> 50万人（令和12年度）	○ 地域ゆかりのアスリートの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調布市ゆかりのアスリートの応援</li> <li>● 次代を担うスポーツ選手の発掘・支援</li> </ul>
		○ トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トップアスリートとの交流機会の創出</li> <li>● トップスポーツの観戦・応援機会の創出</li> <li>● トップスポーツチーム等とのパートナーシップの強化</li> </ul>
○ 多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大規模スポーツイベント等の開催支援</li> <li>● 大規模スポーツイベント等と連携した地域振興の促進</li> </ul>	
○ 大規模スポーツイベントのレガシーの活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大規模スポーツイベントを契機とした多様な主体とのパートナーシップの活用・発展</li> <li>● パラリンピックレガシーである「パラハートちょうふ」の取組推進</li> <li>● 他分野間連携の推進（スポーツ×平和, 文化, 教育, 地域経済活性化など）</li> </ul>	

※ 3つの基本目標やひもづく基本施策は、それぞれが完全に独立したものとして捉えるのではなく、相互に密接に関係し合うため、関連する分野や施策が横断的に関わり合い、スポーツ推進に携わる各主体が連携・協働して取り組むものとする。